

# 幸徳秋水 (こうとく・しゅうすい) 1871~1911

社会主義者・無政府主義者 ~志士仁人の革命家~

**出生** 明治4年9月23日(1871)幸徳篤明、多治の三男として、高知県幡多郡中村町(現・中村市)に生まれる。本名伝次郎。薬種業・酒造業をいとなむ篤明は伝次郎2歳の時に死亡、以後母の手で育てられる。

**履歴** 中村中学校中退(1885)の後、上京。中江兆民の学僕となる(1888)。『自由新聞』(1893)、『團團珍聞』(1897)、『万朝報』(1898)、『平民新聞』(1907)などで新聞記者として文名をはせる一方、社会民主党結成(1901、即時禁止)、平民社の創設(1903)、社会革命党結成(1906)等を行っている。大逆事件により検挙起訴される(1910)。

**事績** 自由民権運動に参加し、自由党左派として活動を行っていたが、「自由党を祭る文」(1901)を著すなど、漸次社会主義に近づいていった。青年期に師事した中江兆民の影響もあり、自由・平等・博愛の精神に則って、明治官僚国家の権力に対する批判的な立場を貫き、普通選挙を手段に議会を通じて社会主義の実現を目指し、また、日露戦争では内村鑑三、堺利彦らとともに反戦平和を主張している。1905年の渡米後はロシア第一革命等の影響を受け、議会主義の立場を離れ無政府主義の直接行動論による主張が目立つようになった。

**評価** 幸徳秋水は豊富な漢籍の知識を有し、卓越した文章力でジャーナリストとしての地位を確立した。この漢籍の知識と中江兆民に受けた影響が、幸徳秋水の思想の根底にあるとされている。また、社会主義者・無政府主義者としては、プロレタリアートの役割と階級闘争の認識の欠如を指摘されることが多いが、飛鳥井雅道のようにそのことを単なるマイナスとは片づけない評価や、神崎清のように日本の労働者階級が未成熟だったとする説もある。大逆事件についても、当時の裁判の経過等に問題があるという説が多数であるが、事件の多くを当局のでっち上げとする説から相応の責任を幸徳秋水に帰す説まで様々な説がとられている。

## 代表作

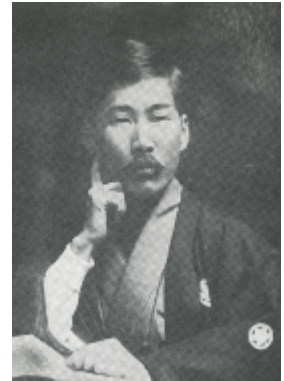
『基督抹殺論』 1910年春から湯河原の宿で書きはじめ、「大逆事件」で捕われ、東京監獄で脱稿したもの。キリスト教の影響が強かった日本の社会運動に対して、キリスト教を脱皮して科学的・戦闘的社会主義を確立する必要を痛感してのキリスト教批判の書。著者の刑死後8日目に発刊、1ヶ月で7版を重ねた。全集8巻に収録。

『社会主義神髓』 いちはやくマルクス主義の大綱を把握し紹介したもので、その名文と整った構成で広範な読者をもち、多大の啓蒙的役割を果たした。全集4巻に収録。

『廿世紀之怪物帝國主義』 レーニンの「帝國主義」ホブソンの「帝國主義論」よりも早く、20世紀の最初の年に日本人の手によって発表された反帝國主義・反戦の先駆的著作。刊行3年後に起こった日露戦争時には更に進んだ理論的立場から反戦運動を展開するようになった。全集3巻に収録。

**神奈川** 大逆事件における幸徳秋水の逮捕は相州足柄下郡土肥村大字湯河原温泉宿天野屋旅館に止宿中の出来事。

**最期** 1911年(明治44)1月24日、東京監獄で処刑され、午前8時6分に絶命。享年40歳。



## Great Works 10

### 幸徳秋水全集 全13巻 明治文庫 1968~1973 <308 / 40>

**解題** 初めて編纂された幸徳秋水の全集で、日本社会主義運動の先駆的思想家・幸徳秋水の文筆活動の全貌がほぼ明らかになる。単行本として刊行されたものにとどまらず、無署名の新聞・雑誌掲載記事や書簡、住所録なども収録している。

#### 内容

第1巻 自由新聞[自由新聞に掲載されたもの6篇(1894年)]めさまし新聞[めさまし新聞に掲載されたもの3篇(1895年)]中央新聞論説[中央新聞に掲載された翻訳小説・論説など20編(1895~1898年)]19世紀と20世紀[1894~1900年に雑誌等に掲載されたもの19編]團團珍聞茶説1~[團團珍聞の茶説116篇(1897~1901年)]

第2巻 萬朝報論説1~3[『万朝報』の論説156篇(1898~1900年)]

第3巻 大逆無道録[『千代田毎夕』に掲載された『廿世紀之怪物帝國主義』の習作とも言える論文3点(1900.11

- ~1901.2) ]廿世紀之怪物帝國主義[ 警醒社書店 1901年]萬朝報論説4 [『万朝報』の論説 84篇(1901年)] 社會主義の大勢[ その他の新聞・雑誌に寄稿した文章 8篇]
- 第4巻 萬朝報論説5~6 [『万朝報』の論説 133篇(1902~1903年)] 社會問題の歸趣[ その他の新聞・雑誌などに発表した論文・演説速記録等 19篇(1902~1903年)] 社會主義神髓[ 朝報社 1903年(および附録 5篇)]
- 第5巻 週刊『平民新聞』論説他 [『平民新聞』、『直言』の論説 79篇(1903~1905年)] 共產黨宣言[ 1904年の『平民新聞』掲載のものと1906年『社會主義研究』掲載のもの2篇] 擊石火 [『平民新聞』に書き記した社会寸評 163篇(1903~1905年)]
- 第6巻 狂瀾餘沫[ 訪米に際して書かれた論説 15篇(1906年)] 余が思想の變化[ 直接行動論を主張し始めた時期の論説等 25篇(1905~1906年)] 革命奇談神愁鬼哭[ 隆文館 1907年(レオ・ドヰッチ(レフ・デイチ)「シベリアの十六年」の抄訳)] 東京評論・海南評論[ 1907年~1908年に発表された論説等 32編] 自由思想[ 1909年~1910年に発表された論説等 13篇] 獄中手記[ 大逆事件で起訴された後に書かれたもの 2篇]
- 第7巻 經濟組織の未来(社会的総同盟罷工論)[ 秘密出版 1907年(アーノルド・ロー「社会的総同盟罷工論」の翻訳)] 無政府主義と新労働組合 [『日本平民新聞』1908年2月5日~20日(エリンコ・マラテスタ「無政府主義と新労働組合」の翻訳)] 麵麩の略取[ 平民社 1909年(ピーター・クロボトキン「麵麩の略取」の翻訳)]
- 第8巻 評伝[「兆民先生行状記」「小山久乃助君を哭す」「社会民主党建設者ラサール」 25篇] 雜纂[ 先輩・知己の著書への序跋の類、書評など] 基督抹殺論[ 丙午出版社 1911年] 漢詩[ 秋水の著作・原稿・書簡・日記・書幅にあった漢詩]
- 第9巻 日記[「後のかたみ」(中江兆民学僕時代(1889年~1890年))、「時至録」(『万朝報』論説記者時代(1899年8月~12月))、「記事(渡米日記 他)」(1905年~1906年のアメリカ旅行の日記と帰国後、1907年土佐中村に帰省するまでの主要な事歴の記録)] 書簡[ 1890年~1911年] 年譜[ 誕生から1901年末までの履歴を記した自筆の年譜] 受信人別書簡索引
- 別巻1 幸徳秋水についての論作[ 秋水の直接かかわり合いをもった21人の回想記]
- 別巻2 演説草稿[ 1902年頃の演説草稿] 資料補遺[ 論稿 14編、漢詩 4編、書簡 18通] 青白眼[ 秋水自筆の住所録] 書評[ 秋水自身が整理していた『社會主義神髓』『兆民先生』についての書評] 年譜 著作目録 家系図 印譜 参考文献 幸徳秋水全集人名索引 幸徳秋水全集正誤表
- 補巻 大逆事件アルバム 幸徳秋水とその周辺 [幸徳秋水や「大逆事件」その他の出来事等の写真集]

## 参考文献 ~この人をもっと知るために~

### < 図書 >

- 📖 大逆事件の全体像 / 中村文雄著  
三一書房 1997年 317p <210.68FF / 105> 資料番号 20945648
  - 📖 幸徳秋水等の大逆事件 / 武安将光著  
勁草書房 1993年 145p <210.68BB / 102> 資料番号 20567830
  - 📖 幸徳秋水 - 日本の急進主義者の肖像 / F・G・ノートヘルファー著 竹山護夫訳  
福村出版 1980年 379,19p <289.1L / 1595> 資料番号 10536647
  - 📖 幸徳秋水と片山潜 - 明治の社会主義(講談社現代新書) / 大河内一男著  
講談社 1972年 256p <363.02 / 30> 資料番号 10985323
  - 📖 幸徳秋水 一革命家の思想と生涯 / 田中惣五郎著  
三一書房 1971年(理論社 1955年の新装版) 468p <289.1 / 858> 資料番号 10528420
  - 📖 幸徳秋水研究 / 糸屋寿雄著  
青木書店 1967年 357,13p <289.1 / 563> 資料番号 10524767
  - 📖 幸徳秋水(人物叢書 20) / 西尾陽太郎著  
吉川弘文館 1959年 327p <289.1 / 422> 資料番号 10523157
- ### < 図書(部分) >
- 📖 幸徳秋水 - 志士仁人の革命家 / 林尚男著(平民社の人びと 秋水・枯川・尚江・栄)  
朝日新聞社 1990年 p7 - 115 <309.02Z / 10> 資料番号 20263026
  - 📖 幸徳秋水 / 竹山護夫著(言論は日本を動かす 第6巻)  
講談社 1986年 p33 - 67 <281T / 122 / 6> 資料番号 12357208
  - 📖 幸徳秋水 / 飛鳥井雅道著(20世紀を動かした人々 第13巻)  
講談社 1963年 p173 - 254 <280.8 / 10 / 13> 資料番号 10496974